

# 十六年度の 大濠スポーツ

## 剣道部大旗奪還

本年度の母校で特筆すべきはやはり剣道部の玉竜旗優勝であろう。

平成十六年度玉竜旗高校剣道大会は七月二十九日マリンメッセ福岡で決勝戦を実施。大濠が岡山の倉敷高校を下し、十一年ぶり、四度目の優勝を飾った。先鋒・梶原宗一郎(三年)の一勝一分けで先行、副将・村岡将和(三年)が倉敷の大將からメン・コテを立て続けに奪う完勝で決着をつけた。昨年関門海峡を渡った玉竜旗を大濠が奪還した。

その他、バスケットボール部・バレー部・バドミントン部は相変わらず県内に敵なしの状況で、柔道部も名門復活を遂げた。サッカー部、軟式野球部も常に県での優勝を狙える位置にある。テニス部は九州・山口のウインタージュニア・ダブルスで、初の優勝を果たした。駅伝部は、地区大会で思わぬ苦戦を強いられ、県大会での雪辱もならず、またしても都大路は遠かったが、来年度は期待の新人をむかえ、復活を期すことであろう。硬式野球部は福岡地区新人戦で久し振りの決勝に進出、新年度が大いに期待できる。

## 十七年入試状況

九大法学部A入試三名、早大指定校推薦四名など

本年度も入試状況は極めて順調である。防衛大学一次合格者六十五名(現役のみ)。指定校推薦は早稲田大学の四名をはじめとして、立命館大学も四名、スポーツ推薦も含めると、中央大学は六名、明治大学は五名、指定校推薦全体では三十二名。スポーツ推薦が十七名。AOや一般推薦が二十六名。福

岡大学は全ての推薦をあわせて九十三名。国立大学のAO・推薦関係は九州大学法学部三名の他、山口大学二名、横浜市立大学一名、北九州市立大学一名。

この記事を書いている現在は一月二十五日、国立大学の出願が始まる日である。まだ私大入試も本格的には始まっていない。学校では昨日から、国立二次対策および私大対策の授業が始まって、最後の追い込みの時期である。そんな時期に既に前述のように進学先を決定した者も数多くいる。現役の生徒諸君は、この記事が出るころ、卒業式をむかえ、私大の合格発表はあらかた終わり、国立前期の合格発表を待っているという状況であろうが、先輩らが築いてきた伝統を守り、大濠魂を胸に、最後の最後まで頑張っただけの思いがある。

## 大濠高校前年大学合格実績

国立大学 171名	熊本大学 10名	準大学 37名	立命館大学 65名
東京大学 2名	鹿児島大学 11名	防衛大学校 32名	その他 55名
京都大学 4名	山口大学 10名	水産大学校 3名	《関東地区》
大阪大学 3名	広島大学 5名	その他 2名	早稲田大学 31名
神戸大学 4名	その他 22名	私立大学 989名	慶應義塾大学 14名
北海道大学 4名		《九州地区》	上智大学 1名
東北大学 2名	公立大学 18名	福岡大学 328名	東京理科大学 17名
横浜国立大学 3名	北九州大学 6名	西南学院大学 66名	明治大学 20名
電気通信大学 2名	九州歯科大学 1名	その他 151名	青山学院大学 9名
筑波大学 2名	横浜市立大学 1名	《近畿地区》	中央大学 17名
九州大学 42名	東京都立大学 1名	関西学院大学 18名	法政大学 7名
九州工業大学 15名	その他 9名	関西大学 22名	芝浦工業大学 8名
佐賀大学 11名		同志社大学 32名	日本大学 15名
長崎大学 19名			その他 77名

## 「大濠人」訪問



筑紫女学園高校陸上部 河村 邦彦 監督

久しぶりに「大濠人」訪問インタビューをおこなった。今回は筑紫女学園高校陸上部監督の河村邦彦氏(六十四歳、第五回卒)をお訪ねした。河村氏は大濠高校を卒業後、福岡大学に進まれた。高校・大学を通じて陸上部に所属され、大学時代は二度の九州地区の大学駅伝優勝を経験していらっしやる。河村監督の指導者歴は、実はこの大学時代に始まる。大学時代、選手生活をしながら、母校大濠高校の陸上部当時駅伝部はまだ無いの指導にあたられた。河村監督が大学最後の年、指導した生徒達が全国大会初出場、初優勝を成し遂げた。昭和三十七年のことである。弱かった時代からの急成長を目の当たりにしたと、河村監督は当時を振り返って目を細めていらっしやる。

さて、大学卒業後は、福岡大学の職員として勤めていらっしやるが、昭和四十五年から筑紫女学園高校陸上部の指導にあたられ、平成三年からは、筑女に事務職員としてお勤めである。

その筑女の陸上部の全国駅伝大会での戦績をあらためて、紹介しておく。昨年末の大会で、十年連続十五回目の出場である。十五回のうち、十四回入賞。優勝三回、準優勝二回、三位一回と、なんととも輝かしい戦績である。

鯉川なつえ、宮崎安澄らをはじめとする数多くの優秀なトップランナーを育てられた。河村監督の指導のモットーは、目標に向かって努力することの大切さを生徒に理解させる。福岡は激戦区なので、追われる立場は相応きついうた。二位との差がわずか十秒以内での優勝が四回もあったそう。全国大会優勝を期待する周囲のプレッシャーも常に感じていらっしやること。毎朝六時から、放課後は七時まで、厳しい練習だけが、それを跳ね返していく。苦労は多いが、それ故、勝った時の喜びは一人とは、河村監督。今後の目標は、とにかく、県で勝つこと。いい選手が揃えば、全国制覇もできる。筑女の快走はまだまだ続きそうである。

趣味は、酒、ストレッチ解消になること。一男二女は既に結婚されていて、今は奥様と二人暮らしだそうである。

最後に、今現在の「大濠高校」については、進学・スポーツともに実績を出し、母校として、誇りに思っただけのこと。さらに、後輩である駅伝部の諸君には、思い入れが強い分、相当厳しい評価であるが、とにかく、強く思い、努力すれば、思いは叶うはず、とのこと。復活を願っているのは、私だけではない」と力強いエールを送られた。

## 新刊! 『教育の発展のために』

末岡光臣著

末岡光臣先生は本校昭和三十五年(第七回)卒。東京大学を経て、東京大学大学院教育研究科を修了され、神奈川県・福岡県で、県立高校教諭として、三十四年の永きにわたり、教職につかれた。

本書は、その豊富な経験をもとに、様々な角度から、教育について著されたものである。副題として、福岡県の教育現場からの提案/ストップ・ザ・学校崩壊!とある。新風舎刊。